

福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
令和4年3月1日（火）
- 2 確認箇所
4号機西側（陸側遮水壁K排水路交差付近）
- 3 確認項目
陸側遮水壁測温管の温度上昇の対応状況

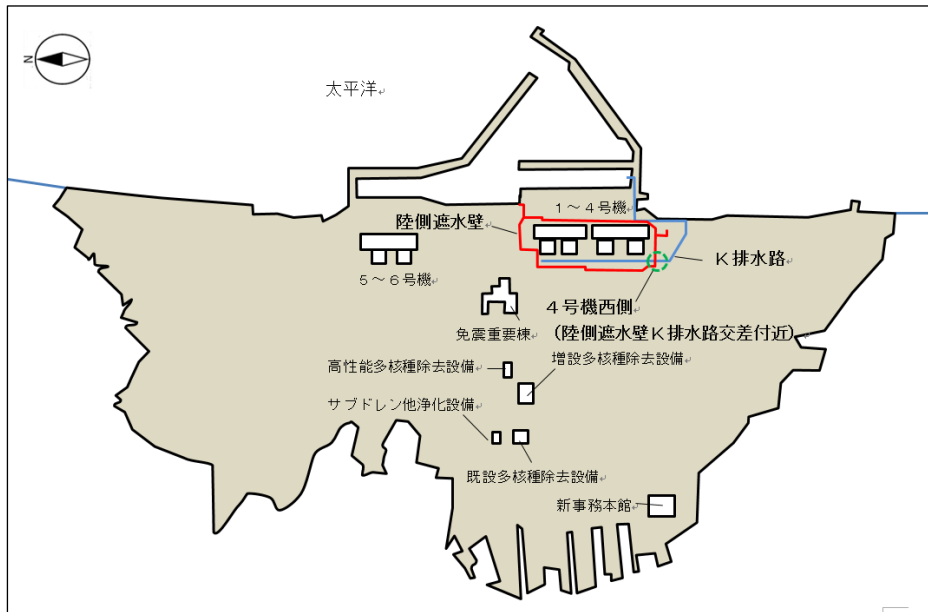
4 確認結果の概要

1～4号機建屋周囲に設けられている陸側遮水壁（凍土壁）の一部（K排水路交差付近の測温管150-7S）において、地中温度が0℃を超える状態が継続する事象（令和3年10月28日東京電力公表）が発生し、東京電力では、これまで、地下水の流入を抑制するために、測温管150-7S上流側（西側）への鋼管設置や部分的な鋼矢板の設置及び地下水の水みちの有無等を確認するためのボーリング調査を実施してきている。

このうち、鋼矢板の設置については、昨年12月に設置工事を開始したものの、過去に実施した地盤改良によるものと推定される固結した土砂の存在のため計画どおり設置することができず、鋼矢板の設置位置を地盤改良の影響範囲を考慮し当初計画から約3m西側に変更するとともに施工機材も変更することとし機材の手配等を行っていた。このたび、ボーリング調査が終了し鋼矢板設置の準備が整い、2月23日から変更した位置において鋼矢板を設置する作業が開始されたことから状況を確認した。

（図1、写真1）（前回確認日：[2月15日](#)（水みち調査等））

- ・鋼矢板の設置は、施工機（硬質地盤対応油圧式杭圧入引抜機）により先行して地盤掘削を行い、その後同じ施工機を用いて鋼矢板を圧入する工法で行われており、現地確認時には北側から6枚の鋼矢板設置が完了し、7枚目の先行掘削が終了したところであった。（写真2）
- ・東京電力によると、10枚の鋼矢板を設置する計画であったが、現場の状況から9枚に変更するとのことであった。
- ・鋼矢板設置箇所西側では、共用プール建屋に降った雨水を、一部損傷した箇所が確認された地下側溝を通さずに、既設雨水桝に排水する仮設導水管（塩ビ管）の設置が進められていた。（写真3）



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)
鋼矢板設置作業の概観
(南東側から撮影)



(写真2-1)
先行掘削終了時の状況①
(西側から撮影)



(写真 2 - 2)
先行掘削終了時の状況②
(西側から撮影)



(写真 3)
仮設導水管の設置状況
(共用プール建屋東側を南東側から
撮影)

- 5 プラント関連パラメータ等確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。